

第1号—第20号 目次

Lynkeus 創刊号

昭和35年5月20日

Lynkeus der Türmer	(2)
創刊の辞	奥津 彦重 (4)
リュンコイス創刊に寄せて	秋葉安太郎 (5)
原色版(対照の美)外	撮影・秋葉安太郎 (6)
シラーとゲーテ《学生に与える交友の素描》	植村 敏夫 (9)
「哀れなハインリッヒ」におけるハルトマンの無常観について	藤代 幸一 (18)
シラーの祖国愛と自由《「オルレアンの少女」を中心として》	坂本 健順 (29)
H. v. Kleist の Hermannschlacht を中心として	竹内 精一 (36)
シュトルムと政治問題	五木田 浩 (41)
Bergengruen 「大独裁者と審判」について	星野 広治 (46)
Über Leben und Tod in der Dichtung von Carossa	丹治寿太郎 (54)
Eine Korrespondenz über die Nachkriegslyrik	ニルゲン・ブルンク (60)
ゴチック様式試論	古館喜代治 (64)
ドイツ語と日本語	万足 卓 (70)
垣内理論覚書《ドイツ文芸学と国文学の関係》	赤塚 行雄 (75)
埴輪幻想(詩)	神保光太郎 (81)
読書余録《1959年出版書を中心として》	A B C (82)

Lynkeus 第2号

昭和36年4月10日

物語(詩)	神保光太郎 (7)
「疾風怒濤」期のお家騒動劇二つ	山下 秩光 (8)
ゲーテの譚詩『漁師』について	万足 卓 (16)
Die Räuber から Die Polizei へ	坂本 健順 (21)
„Die Räuber“ における Schiller	小俣 公男 (34)
Genoveva における Hebbel の苦悩について	岸 純一 (43)

- Raabe のユダヤ観について……………竹内 康夫 (50)
 内面体験としての戦い《ドイツ戦後文学に関する一試論》
 ……………赤塚 行雄 (64)
 E. Staiger における様式研究の概念……………西潟 和宏 (70)
 ドイツ理想主義における全体観……………古館喜代治 (80)
 読書余録 (第2) 《1960年のドイツ新刊書について》…奥津 彦重 (86)

Lynkeus 第 3 号

昭和37年 4月10日

- 赤坂教授の訪独に際して…………… (3)
 遠い風景 (詩) ……………神保光太郎 (9)
 白い十字架《ハイネの詩と恋愛から》……………万足 卓 (10)
 R. Huch の「コンファロニエリ伯伝」について ……斎藤 秀 (26)
 „Deutsche Größe“ von Schiller ……………坂本 健順 (36)
 Wallenstein の死《その意味するもの》……………小俣 公男 (45)
 M. Heidegger と Literaturwissenschaft ……………西潟 和宏 (56)
 Die geistige Bewegung im kommunistischen China seit 1958
 ……………赤坂 三男 (67)
 近代ヒューマニズムにおける「疎外」の一考察……………栃原 敏房 (80)
 属格 (Genitiv) の形態について ……………高橋 文雄 (90)
 読書余録 (第3) 《1961年のドイツ新刊書を中心として》
 ……………奥津 彦重 (95)

Lynkeus 第 4 号

昭和38年 4月30日

- 古代抒情 (詩) ……………神保光太郎 (7)
 戯曲《ヴァレンシュタイン》におけるマックス,
 テクラ恋愛挿話について
 一戯曲構成の上から観て……………山下 秩光 (8)
 ゲーテ詩講話—鼠捕りと宝掘り……………万足 卓 (14)
 「凱旋横町」における Ricarda Huch の人生観 ……斎藤 秀 (27)
 Das Problem der Zeitenwende in Hebbels
 Nibelungentrilogie……………Dr. Jürgen Blunck (42)
 H. A. Korff の „Faust“ 解釈とその研究方法について

.....	西潟 和宏 (57)
与格 (Dativ) の意味, 形態および機能について	高橋 文雄 (79)
読書余録 第4—1962年のドイツ新刊書を	
中心として.....	奥津 彦重 (86)

Lynkeus 第5号	昭和39年4月30日
花は見ていた (詩)	神保光太郎 (7)
ローベルト・ムシル序説.....	桜林 保格 (8)
「ルードルフ・ウルスロイ」における	
リカルダ・フーフの恋愛観.....	斎藤 秀 (17)
G. ビュヒナー『レオンツェとレーナ』論	
——ロマン的イロニーの幕合劇——.....	石黒 英男 (32)
Schiller の Maria Stuart	
——良心に関する小論——.....	小俣 公男 (46)
グラッペ研究 I	
——「Hannibal」——.....	小松崎瑞彦 (56)
J. Pfeiffer における実存的解明.....	西潟 和宏 (71)
Pfaffe Amis の笑い.....	藤代 幸一 (84)
対格 (Akkusativ) の意味, 形態および機能について	高橋 文雄 (97)
弔 辞 (桜林保格氏のみ霊にささげる)	奥津 彦重 (117)

Lynkeus 第6号	昭和40年11月30日
ささぐる言葉.....	菊池 栄一 (5)
奥津彦重先生の古稀を迎えられしを寿きて.....	鈴木知太郎 (9)
ゲーテ自然のなかを!	神保光太郎 (11)
ゲーテの月の叙情詩.....	福田 英男 (12)
抒情詩のディオーニュソスの性格	
——ニイチェの抒情詩論——.....	小野 浩 (23)
「文学の形象」——詩的言語の抽象化について——.....	佐々木 稔 (42)
Diphthong の音標文字について.....	西潟 和宏 (54)
『ヒュペーリオン, あるいはギリシャの隠棲者』について	
の一つの試み——回想, 記憶, 追憶, 覚醒——.....	木村 行宏 (70)

ラーベの作家としての出発と「雀横町年代記」……………	竹内 康夫 (88)
「ミヒャエル・ウンガー」の改題についての一考察……………	斎藤 秀 (108)
ベンにおける「自我」の問題について……………	星野 広治 (123)
K. Ph. Moritz の模倣説……………	中野 康存 (139)
ゲーテにおける総体性の問題……………	古館喜代治 (148)
Schiller の Don Carlos その成立に関して……………	小俣 公男 (165)
クセーニエン——シラー・ゲーテ親交の精華——……………	坂本 健順 (180)
ゲーテとバッハ……………	植村 敏夫 (192)
日本のゲーテ……………	菊池 栄一 (212)
現代ドイツ文芸学のヤーススの相貌とその批判……………	奥津 彦重 (232)
奥津彦重博士略歴および主な業績……………	(245)
Lynkeusバックナンバー目録……………	(246)

Lynkeus 第 7 号

昭和41年12月15日

ベンにおける「思考」と「表現」の問題について……………	星野 広治 (12)
ゴットフリート・ベンにおける老子……………	佐々木 稔 (32)
ドイツ人のためのカテキズム……………	クライスト (44)
	浅山正弘訳
シラーの「テル」について……………	小俣 公男 (56)
単母音の音標文字について……………	西潟 和宏 (69)
ノサック訪問……………	菊池 栄一 (87)

Lynkeus 第 8 号

昭和42年12月15日

故坂本健順教授略歴……………	(8)
弔 辞……………	菊池 栄一 (9)
悼……………	五木田告水 (10)
外遊日記(遺稿)……………	坂本 健順 (11)
ゲーテと物理学者たち……………	菊池 栄一 (35)
Schiller の悲劇について (I)……………	小俣 公男 (51)
クライストにおける意識の問題	
——操り人形論とアンフィトリオン劇——……………	石井 靖夫 (64)
Th. Storm の童話の背景と „Hans Bär“……………	五木田 浩 (76)
ラーベの Stuttgart 時代と Braunschweig への帰郷……………	竹内 康夫 (83)

F. Kafka の「審判」について……………	小林 利裕 (110)
「家神奉幣」におけるチェコ……………	Václav Cerny・宍戸孝実訳 (119)
ゴットフリート・ペンの「ナチ体験」……………	佐々木 稔 (129)
ペンの詩 „Das späte II“ について……………	星野 広治 (143)
子音の音標文字について……………	西潟 和宏 (163)

Lynkeus 第 9 号

昭和43年12月15日

Novalis の共和制理念……………	石井 靖夫 (7)
Schiller の悲劇について (2) ……………	小俣 公男 (20)
複製芸術時代の収集家——ワルター・ベンヤミン	
の『フックス論』をめぐる——……………	好村富士彦 (33)
クルティウス：読書日記	
——L. デヒーオ「均勢かヘゲモニーか」——…	西潟和宏訳 (47)
クルティウス：読書日記	
——文学の受用と予備知識——……………	木村行宏訳 (52)
形容詞と副詞……………	茂原 譲 (57)
強変化動詞の Ablaut について……………	村石 凱彦 (73)
滞独通信……………	星野 広治 (103)
滞独通信……………	竹内 康夫 (133)
ハイデルベルク遊学……………	宍戸 孝実 (136)

Lynkeus 第 10 号

昭和44年12月20日

「リュンコイス」第10号発刊に際して……………	菊池 栄一 (5)
Schiller の悲劇について (3) ……………	小俣 公男 (7)
シュトルムにおける悲劇性	
——„Zur Chronik von Grieshuus“をめぐる——…	宮内 芳明 (25)
リルケ文学における顔と仮面の問題……………	宍戸 孝実 (39)
「権力」と「精神」——政治をこえる文学——……………	佐々木 稔 (56)
ハインリッヒ・フォン・クライストの最後について……………	石井 靖夫 (74)
子音の発音表記に関する一考察……………	西潟 和宏 (87)
ベンをもとめて——旅日記から——……………	星野 広治 (97)
滞独通信——ラーベをたずねて——……………	竹内 康夫 (109)

リュンコイス第6号所載「現代ドイツ文芸学のヤーヌスの相貌と
その批判」参考書目追加(1969年春まで)……………奥津 彦重(114)

Lynkeus 第 11 号

昭和45年12月20日

戦中のバラード

- 戦中のゲーテ(1813年)―その三……………菊池 栄一(7)
- 五木田先生をしのぶ……………瀬川美音子(31)
- 五木田告水 句集「靴」より……………(31)
- ヘルダーのフマニテートの概念
- 『フマニテートブリーフェ』を中心に……………三輪 信吾(32)
- シュティフターの「習作集」特に「喬木林」を
中心とした当時の反応……………北村 侑子(46)
- H. プリンクマン: ドイツ語において品詞とは何か……………茂原 讓 訳(54)
本郷 建治
- Siebs 19版について……………西潟 和宏(79)
- 南独における Romantik 成立への歩み……………石井 靖夫(92)
- ラーベを訪ねて……………竹内 康夫(102)
- ガイスリンゲンにて……………村上 文彦(117)

Lynkeus 第 12 号

昭和46年12月20日

Hartmann von Aue の Büchlein—minne(愛)についての

- 教えをめぐって……………有泉 泰男(7)
- H. A. コルフ: ファウストのキリスト教からの離反……………西潟和宏訳(20)
- シラー, ノヴァーリス, ヘルダーリン(I)……………小俣 公男(30)
- 1809—1810年の Bettine Brentano……………石井 靖夫(51)
- グリムメールヒェンに見られる形態の変遷……………満足 忍(66)
- Th. Storm: „Es waren zwei Königskinder“
- 1人の少年の死—……………瀬川美音子(78)
- 「大独裁者と審判」における人間の正義と完全なる存在について
- ウエルナー・ペルゲン Gryuon の代表作から—……………千田 草苗(90)
- 昭和46年度開講科目の参考文献……………奥津 彦重(194)
- Eine Betrachtung zu Goethes „Logos“-Übersetzung
……………Tsutomu Hasegawa(119)

Muzot 訪問中村 毅 (133)

Lynkeus 第 13 号

昭和47年12月20日

『西東詩集』理解のために —その二—菊池 栄一 (1)
La Roche 三代とゲーテとの関係石井 靖夫 (62)

★ ★ ★

シラー、ノヴァーリス、ヘルダーリン(2)小俣 公男 (1)
ハルトマン・フォン・アウエの作品にみられる

〈Vrou Minne〉について有泉 泰男 (23)
ヘーゲルの文章について高沢 達 (36)

トーマス・マンのイタリア体験からみた『マリーオ
と魔術師』について一口 捷二 (47)

ケストナーのリアリズムとイギリスのロマンスにつ
いて落合 直文 (57)

ノヴァーリスにおける黄金時代豊田 順一 (68)
ブレヒトの初期戯曲における「不条理」について坪谷 準治 (81)

メーリケの『ある冬の朝、日の出前に』永口 孝徳 (94)
H. A. コルフ：ファウストにおける哲学的人間の悲劇西潟和宏訳 (108)

J. クレップナー：キリスト教的小説内山 稔訳 (120)

Lynkeus 第 14 号 菊池栄一博士古稀記念号

昭和48年12月20日

献呈の辞藤村 宏 (1)
菊池栄一博士略歴および主な業績 (4)

ヴァイマル・ゲーテ協会の第63回総会に出席して菊池 栄一 (7)
論文

「ファウスト」と「マイスター」奥津 彦重 (34)
アルニムの学生劇石井 靖夫 1

オーストリア文学の問題藤村 宏 (49)
「ベルトルト・ブレヒトの家庭用説教集」の一断面内藤 猛 (63)

Schiller の Demetrius小俣 公男 11
1920年代のギュンター・ミュラー西潟 和宏 24

初期フリードリッヒ・シュレーゲルの文学批評 II	豊田 順一	34
ゲオルク＝トラークルの詩 《Grodok》	三枝 絃一	44
ヘルダーリンの短頌歌 (II) —その詩形を中心に—	木村 行宏	55
Schiller の「ギリシャの神々」に関して	江 栄海	65
メールヒェンの人間像	竹内 季子	73
『選ばれし人』について		
—小説技巧と物語の精神を中心として—	一口 捷二	82
Das Ludwigslied について	酒巻 幹彦	93
ゲーテのメールヒェン —形体論より—	落合 直文	100
デュレンマツト試論 —プレヒトとの関係について—	坪谷 準治	109
1824年 ワイマルのゲーテとハイネ 1	山崎 良介	118
第6 悲歌 —英雄の解釈—	伊藤 卓立	(80)
Graf Otto von Botenlauben の生涯と彼の Kreuzzugslyrik		
について	有泉 泰男	147
ゴットフリート・ベン「エピローク1949年」	星野 広治	(56)
ポンの思い出	竹内 康夫	(62)
翻訳		
J. Klepper : 「福音主義牧師家庭とドイツ国民」(上)	内山 稔	(94)
H. Brinkmann : 「言語形態としてのドイツ語の文章」		
—その(1)—	本郷 建治	125
E. F. Podach : 「フリードリッヒ・ニーチェ破滅期の諸著」		
	朝長隆一郎	132
ドイツ語参考資料の扱い方	小林 京子	140

Lynkeus 第 15 号

昭和49年12月20日

論文

カール・フィリップ・モーリッツとシュレーゲル兄弟	豊田 順一	(1)
ナイトハルトの十字軍の歌について	有泉 泰男	(20)
子音の影響による母音の変化について	西潟 和宏	(29)
ロマン派時代の新聞雑誌	石井 靖夫	(40)
恋は天と地を行き交う		
—『西東詩集』の「天国の巻」について—	菊池 栄一	(49)

Johann Wilhelm Ritter と Novalis における自然

- の統一思想について……………中野 裕子 (69)
- Sturm und Drang の兄弟悲劇……………田中 徳一 (78)
- メールヒェンと文学……………落合 直文 (87)
- 形容詞の起源とその分類……………森 秀夫 (96)
- 「三の数の法則」……………竹内 季子 (104)
- 「ゲーテ：ヴィルヘルム・マイスターにみる四人の
女性像」……………千田 早苗 (113)
- ヘーゲル研究 —Korporation について—……………小野 健知 (131)
- 翻訳
- J. Klepper : 「福音主義牧師家庭とドイツ国民」(下)……………内山 稔訳 (138)

Lynkeus 第 16 号

昭和50年12月20日

論文

- カール・フィリップ・モーリッツにおける芸術論
- I—象徴……………豊田 順一 (1)
- 1930年代のプレヒト……………坪谷 準治 (10)
- フランツ・カフカ「家長の心配」とオドラデック……………金成 陽一 (17)
- 現代ドイツ演劇 (一) —演劇の起源とハントケの作品
に関しての一省察—……………江 栄海 (28)
- ヴォルプスヴェーデのリルケについて……………中村 毅 (36)
- マンの「ファウストゥス」とゲーテの「ファスト」
- (その1)……………長谷川 勉 (45)
- 17世紀ドイツの魔女裁判……………朝広 正利 (54)
- もう一つの『チューリヒ訳聖書』……………内山 稔 (62)
- Das Doppelgängermotiv in der Judenbuche……………村上 文彦 (78)
- Über die Behandlung der Reflexivpronomina beim
Deutschunterricht in Japan und die Einordnung dieser
Pronomina in die Satzstruktur……………有泉 泰男 (87)

訃報

石井靖夫先生逝去

Lynkeus 第 17 号

昭和52年2月20日

- ドイツロマン派運動の本質……………石井 靖夫 (1)
- 故石井靖夫教授のドイツロマン派研究……………菊池 栄一 (20)
- ゲーテの象徴主義における人間……………奥津 彦重 (25)
- ある《晩夏》……………藤村 宏 (35)
- ドイツ語における [r] の母音化……………西潟 和宏 (46)
- 「詩学」のための言語学……………佐々木 稔 (56)
- ナイトハルトの歌にみられる自然と人間の描写
- 初期の「冬の歌」を中心に—……………有泉 泰男 (66)
- ノヴァーリスにおける期待と実現……………豊田 順一 (78)

Lynkeus 第 18 号

昭和52年12月20日

- ドイツ語にみられる破擦音……………西潟 和宏 (1)
- Walther と Neidhart の関係
- (L. 64, 31 と H. 68, 23 を中心に)……………有泉 泰男 (9)
- Sturm und Drang 劇の様式に関する試論
- レンツの『軍人たち』とシラーの『たくらみと恋』の場合—
- ……………田中 徳一 (22)
- Linguistik, Textlinguistik, Literaturwissenschaft
- ……………Gustav-Adolf Pogatschnigg (44)
- „Was ist Mittelniederdeutsch?“……………Fumiaki Susaki (57)

Lynkeus 第 19 号

昭和54年3月20日

- レンツの喜劇『家庭教師』……………田中 徳一 (1)
- Neidhart の「十字軍の歌」研究史……………有泉 泰男 (17)
- リルケとグレコ —序論—……………伊藤 卓立 (43)
- BEWEGTE FORM
- Über Franz Innerhofer……………Gustav-Adolf Pogatschnigg (60)

Lynkeus 第 20 号

昭和57年11月30日

- Hawkesworth の《Almorán and Hamet》と Lessing
- の《Nathan der Weise》についての一考察……………柳川 三郎 (1)

シラーの『フィエスコ』における演技者と見物

一劇場観客との関係について……………	田中 徳一 (19)
ノヴァーリスにおける目的論の意味……………	豊田 順一 (34)
「青髭」削除に関する一考察 —Brüder Grimm と	
A. Jolles のザーゲ観と関連させて— ……………	落合 直文 (45)
ショーペンハウアーとシラー— 2つの悲劇観—……………	三輪 信吾 (59)